

自治体名	和歌山市
------	------

女性の健康支援対策の概要

女性の健康支援に関する対策として、従来から保健センターにおいて思春期や更年期の健康問題、女性に多い骨粗しょう症等の健康教育や健康相談を実施している。その他、各イベント、乳幼児健診、子育て広場、成人式などの各種イベントを利用して、又、市の広報、ラジオ、自治会回覧等を通じて様々な啓発・広報活動を行っている。

女性特有のがん検診の受診率は、増加傾向にあるものの、まだまだ低いのが現状である。本市の健康増進計画である健康わかやま21における子宮がん・乳がん検診の受診率30%を達成するために、平成20年度より、市民が受診しやすい検診体制を目指して、マンモグラフィ検診車による集団検診を導入、さらに平成21年度からは、休日検診も実施するなど受診機会の拡大を図っている。また、本市では、女性特有のがん検診受診率の向上や女性一人ひとりが自主的な健康管理ができることを目指し、民間で活動しているピンクリボン運動団体との協同や、地元大学の学識者の意見等も踏まえ、事業展開を図っている。

自治体の特徴

和歌山市は、紀伊半島の北西部に位置する和歌山県の県都であり、三方を山に囲まれ、海と川の自然に恵まれた美しい自然環境と万葉の時代から連なる歴史文化を兼ね備えた温暖の地である。また、進行する少子高齢化や若者の転出者が多いこともあり、市の人口は毎年漸減している。

人口構成・(H21.10.1現在)

	総数	男	女
人	381,304	181,438	199,866
割合(%)	100	47.6%	52.4%

15歳未満	49,843	25,455	24,388
15～64歳	238,144	117,039	121,105
65歳以上	93,317	38,944	54,373
75歳以上	43,074	15,549	27,525
85歳以上	11,011	2,755	8,256

女性に関する健康課題

和歌山市（以下、本市）の乳がんの死亡率は昭和60年9.1で、その後増加傾向にあり、平成20年は17.3に至っている。平成20年和歌山市人口動態統計によると、子宮がんによる死亡は12人で平成19年より3人の減であるが、乳がんによる死亡は34人で、平成19年より7人の増加を示している。

一方、本市の女性特有のがん検診の受診率をみると、子宮がんは過去3年間国の平均を上回っているが、乳がんは国の平均よりも低く、受診状況は低迷状態である。現在受診率向上に向け、更なる効果的な手法を模索している。

平成20年度に行われた市政世論調査では、本市の女性の喫煙率は10.5%であり、国と比較して若干高い。また、喫煙率は過去10年間横ばいの状態である。年代別に見ると20～40歳代の若い世代で高いことから、若い世代に向けた喫煙対策として、胎児や乳幼児へ及ぼす健康被害についての健康教育などが非常に重要な課題である。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	1,479
(2) 中高年期における健康支援事業	901
(3) 女性のがん支援事業	8,244

計

10,624

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	保健所講座「今日から役立つ思春期の性のはなし」
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	1,479

事業目的

思春期教育では、望まない妊娠や性感染症など多くの問題がある。保健所で健康教育として出前講座を行っているが、学校が継続して思春期教育に取り組むことが困難で生徒が知識を深めていくことが難しい状況である。普段からの継続的な支援が重要と考え、教諭対象の講演会を開催し、思春期における性教育の必要性を感じ、思春期を取り巻く状況に地域格差がないことを認識してもらい、学校で性教育を展開してもらうことを目的とする。

事業対象

小学校から高等学校の教諭および性教育を行っている医療職等の専門職員

事業実施体制・展開

- ① 企画会議を実施し、企画・立案する。
- ② 教育委員会に講演会についての説明を行い、小・中学校校長会への紹介を依頼する。
- ③ 小学校・中学校の校長会にて説明を行い、参加を呼びかける。
- ④ 市内の高等学校および支援学校に対し文書にて案内を送付する。
- ⑤ 養護教諭の定例会議にて説明を行い、参加を呼びかける。
- ⑥ 助産師会の会議にて参加者を募る。
- ⑦ 市役所内の健康福祉関係の全部署に対してメールにて案内の送付を行う。

《講演会内容》

講演および展示ブースの設置

- I. 講演A 地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター センター長 岩室紳也
テーマ：「思春期のこころと性 生きる力を育むために、いま、何を、どう伝えるか。」
- 講演B 和歌山県青少年男女共生推進課 班長 山本久司
テーマ：「和歌山県におけるネットの実態と取り組み」
- II. 展示ブース
 - ①啓発パンフレット ②啓発グッズ ③メッセージキルト ④禁煙啓発写真 これらの展示すブースとともに、「ご自由にお取りくださいブース」を設け、思春期に関するパンフレットの配布を行った。

事業目標・評価項目 及び その結果

事業目標 学校関係者に多く出席してもらい、性教育の必要性を理解し学校で実践してもらう。

- ① 講演会案内した学校数における参加した学校数の割合 92校中29校(32%)
参加率 小学校28.8%、中学校38.9%、高等学校27.3%、支援学校50%
また、参加者の中で校長は1名であった。参加希望の教諭より問い合わせもあったが、学校行事と重なってしまったなどで参加できない学校もあった。

参加者数71名中アンケート回収数52名(回収率72%)内 学校関係者回収数24(回収率75%)

- ② 「役にたつ」と回答した参加者全体の割合 講演A、96.1% 講演B、92.3%
- ③ 「役にたつ」と回答した学校関係者の割合 講演A、100% 講演B、95.8%
- ④ 「今後に生かしたい」と回答した参加者全体の割合 51.9%
- ⑤ 「今後に生かしたい」と回答した学校関係者の割合 58.3%

事業の工夫点

周知における工夫点については小学校から高等学校・支援学校まで市内の全学校の養護教諭を始めとする全ての教諭に、参加を呼び掛けた。また、教育を行っている助産師会や産婦人科医にも声をかけた結果、様々な職種の参加が得られた。内容については、県内のネット犯罪の実情と現場を知る山本講師と全国的に性教育で活躍している岩室講師、両者の講義を通じて思春期を取りまく問題点に地域格差がないことを認識してもらうことができた。

事業の効果についての評価・考察

事業評価項目の結果のとおり「役に立つ」と回答した者の割合は参加者全体でも高いが、特に学校関係者に限るとさらに高率であった。また、「今後に生かしたい」と回答した割合は学校関係者に限ると高率になったが6割に留まっており、これは参加者個人が性教育に関する意識を持っていても、学校という組織の中での取り組みとしてつなげていくことが難しいことが伺える。

今回、講演会を開いたことで、思春期における性教育の重要性についての再認識とともに知識の向上が図れたと考える。また、参加者にとっては性教育の現状や青少年に対するネット犯罪の情報を得るとともに情報交換ができたと考ええる。

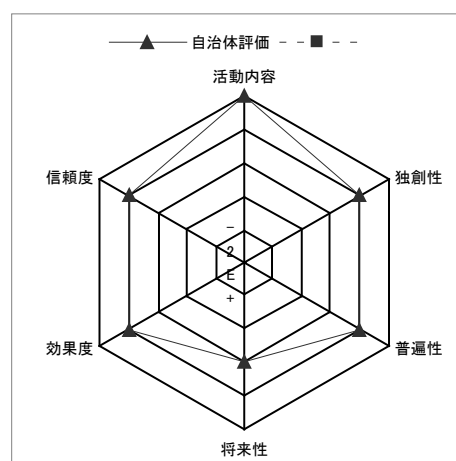
今後の課題

多くの教諭に現在の若者を取り巻く現状を知ってもらい、学校教育に広めていく必要がある。そのためには、教諭が主体的に性教育を行っていけるよう、連携やサポートを行っていく。

また、性教育のあり方について学校全体の取り組みとして行っていけるよう充実させていく必要がある。

ホームページ	http://www.city.wakayama.wakayama.ne.jp
照会先	和歌山市 健康福祉局 健康推進部 地域保健課 健康づくり班 073-433-2261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	5	現場の教諭など現在直接教育に関わっている人を対象とし性教育について考える機会となっている
②独創性	4	県内のネット犯罪実情とあわせて、思春期をとりまく問題点の講演企画となった
③普遍性	4	全国的にどこでも可能である
④将来性	3	継続するには予算面などいろんな条件から難しいものがある
⑤効果度	4	多くの関係者に必要性を感じてもらった機会になった
⑥信頼度	4	実施によりすぐに期待する結果に繋がるものではないが、連携の強化が見込まれる



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	女性のための健康講座 (タラソウォーク)
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input type="checkbox"/> 情報提供
事業費(千円)	901

事業目的

中高年期の女性を対象に、和歌山市の地域資源を活用した健康講座を開催し、健康づくりや仲間づくり、メンタルヘルスに寄与することを目的とし、中高年の時期をより豊かに生き生きと過ごすことができるよう生活習慣を見直し、健康的な生活のあり方について学ぶ機会を提供する。

事業対象

和歌山市在住で概ね40歳代、50歳代の女性

事業実施体制・展開

総合型地域スポーツクラブへの委託により実施する。

「楽しく・美しく・健やかに！」をテーマに和歌山市の地域資源(海、山、史跡など)を活用して健康づくりを行う。講座の前後での体力測定、アンケートを実施する。平成21年10月～平成22年2月の間に①和歌浦海岸散策②加太周辺散策③和歌浦海岸散策④市内熊野古道と4回のウォーキングを実施する。①～③はタラソウォーク④は歴史ウォークとして実施する。現地集合にて10時～14時まで概ね3時間程のウォーキングとランチタイムで参加者同士の交流を行う。講座参加期間中は歩数計を貸しだし機器により歩数記録を行う。

事業目標・評価項目 及び その結果

目標：健康づくり・仲間づくり・メンタルヘルス分野における行動変容

- ① 体力測定の結果で、統計的に有意差が見られたもの
(ア) 収縮期血圧(146.9→138.6mmHg)、座位前屈(10.5→12.8cm)、閉眼片足立ち(13.2→23.6秒)であった。
- ② 講座期間中の受講者全員の一日平均歩行数
(ア) 10月9648歩、11月7213歩、12月8088歩、1月7427歩であった。
- ③ POMSテスト30項目の簡易版にて気分の変化を調べた結果
(ア) 講座後では、抑うつ、怒り、疲労、情緒混乱因子が有意に低下し、活動性は有意に増加した。
- ④ 健康行動に関する自己効力感(セルフエフィカシー)
(ア) 今後の健康行動について60%を超える割合で実践できる自信を持っていると回答した。
- ⑤ ストレスの解消になった(100%)。仲間づくりのきっかけになった(85%)。今後もウォーキングクラブなどで活動したい(100%)であった。

事業の工夫点

地域資源を活用した健康ウォークを展開していく総合型地域スポーツクラブと協同することにより、従来できなかった専門の測定機器の活用や専門指導員による指導で、より充実した教室内容となった。自然資源を活用した健康法「地形療法」は①冷刺激による血液循環機能アップ②適度な紫外線によるビタミンD活性③可視光線による睡眠ホルモン生成④清浄な空気による気管支疾患改善等を取り入れ、歩数計を貸し出したことにより運動の継続意識に繋がった。

事業の効果についての評価・考察

ほぼ3ヶ月間で、4回のウォーキング指導であったにも関わらず、収縮期血圧の低下、柔軟性の向上、平衡性の向上や、気分の改善効果が見られた。今後の健康行動の継続に自信度を持っており、講座への参加が良かったとする意見が多かったことから、健康づくりと同時に仲間づくりのきっかけを作るとともに、メンタルヘルスに寄与する目的は達成できたと考える。

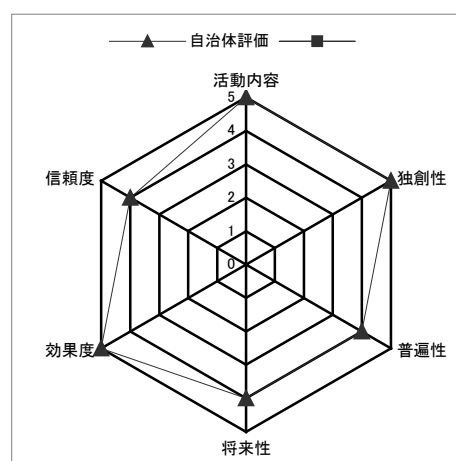
和歌山市は主に西部を海岸線、北部から東部にかけては森林、また市内のところどころには小高い丘などが多数存在し、市の中心部には大きな河川が流れている自然環境に恵まれた環境となっている。さらに和歌山城をはじめ、熊野古道など歴史的に価値ある資源も多数存在しており、地域の資源を活用する健康づくりは身体活動量の増加やメンタルヘルスなどに大きく貢献できる可能性が考えられる。

今後の課題

講座期間中は、健康づくりへの意識、実践が継続できるものの、講座終了後の実践の継続等が難しいのが現状である。講座終了時に行ったアンケートからは、引き続き講座の開催を求める希望も多い。しかし、講座の開催はあくまでも導入手段と考えるので、講座終了後の受け皿として、民間委託も視野にいれ、積極的に健康づくりに取り組む体制が課題である。

ホームページ	http://www.city.wakayama.wakayama.ne.jp
照会先	和歌山市 健康福祉局 健康推進部 地域保健課 健康づくり班 073-433-2261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	5	地域の有効な自然を利用している。今後展開が期待される総合型地域スポーツクラブを活用している
②独創性	5	タラソセラピーとして地形療法を用いたことは独創性がある
③普遍性	4	地元の特性を生かし、自然の資源を利用した展開がどの地域においても実施可能
④将来性	4	地域を活用し、予算の確保、人材の育成、他団体との連携により展開を期待する
⑤効果度	5	参加者のアンケート結果や事前事後調査から効果が高い結果が見られた
⑥信頼度	4	事業の評価としては、参加人数が少ない募集方法の検討、関係団体との連携などが必要である



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	健康応援フェア in わかやま ～輝けわかやまレディ！！～
分野	■啓発活動 □健康教育 ■健康相談
事業費（千円）	8,244

事業目的

本市においては、子宮がん・乳がん検診の受診率は、年々増加しているものの、まだまだ低いのが現状である。そこで、子宮頸がん・乳がんに関する知識の普及・啓発を図るとともに、市民に検診の必要性を認識する機会を提供する。また、市民が自らの健康に目を向け、主体的に健康づくりが実践できるよう啓発を行うことを目的とする。

事業対象

全ての年齢層の女性を対象とする

事業実施体制・展開

- ①他都市で実施している健康イベントの情報を収集し、女性の集客が期待できる企画を立案する。
- ②医師会、歯科医師会、婦人会等、ボランティア各団体に本事業の目的・趣旨を説明し、協力を得る。
- ③広報活動は市報だけでなく、ラジオや地元紙など多くの手段で行い、本事業の周知に努める。ポスターは市内の公共施設、医院や歯科医院、薬局等に配布し、約1900枚掲示する。また、A4サイズのチラシを作成し、特に30～40歳代の女性へ周知する方法として、乳幼児健診対象保護者（約900名）及び市内の保育所保護者（約7,600名）に配布するとともに、駅・スーパーの前でチラシを配布する。
広報開始とともに、健康応援フェア会場での乳がん検診の申し込み（20名）を募集する。
- ④同時期に、がん検診に関する啓発活動として、子宮がん・乳がん検診受診啓発のラッピングバス導入、電車・バスの車内広告を実施することにより、市民にがん検診受診行動の促進を図る。
- ⑤当日は以下の内容を実施する。
 - (ア) 第一部は13時から市役所1階で血管年齢や肌年齢等の測定や乳がん検診、歯科検診、更年期相談等健康に関するイベントを実施した。当日は開始前から多くの女性が集まり、入場制限を行わないと安全が確保できない状況であった（来場者数800名）。また、乳がん検診の当日申し込み（5名）もイベント開始前には予約の受付を終了した。来場者には、本事業に関するアンケートの協力を得た。
 - (イ) 第二部は16時から和歌山城の広場でピンクリボン応援ウォーキングや、市庁舎のライトアップ（18時～20時）を行い、乳がん検診の受診啓発に重点を置いたイベントを実施した。

事業目標・評価項目 及び その結果

事業目標：健康に対する意識を高め、がん検診を受ける必要性を認識する。

来場者へのアンケート調査 500名中226名回収（回収率45%）。回答のうち、女性は212名（94%）

- ①健康応援フェアの満足度 参加して良かった 77%（175名/226名）
- ②健康づくりに対する意識の変化 今後、健康づくりに取り組みたい 88%（200/226名）
- ③本市が実施している子宮がん・乳がんの予防啓発活動（ピンクリボンをラッピングしたバス、電車・バスの車内広告等）の認知度 55.3%（125名/226名）
- ④上記の啓発活動を見たことで、子宮がん・乳がん検診を受けようと思った人の割合 83%（100名/125名）
- ⑤過去1年間、子宮がん検診・乳がん検診のどちらも受けていない人（100名/226名）そのうち、上記の啓発活動を見て（53名/100名）、がん検診を受けようと思った人の割合 81%（43/53名）

事業の工夫点

肌年齢や血管年齢などは、あまり測る機会がないため、多くの女性の関心を得ることができた。アンケートの集計から見ると、女性の割合が9割を超え、女性のためのイベントが開催できたと考える。イベントの中で、乳がん検診を実施したことで、少数名であったが、乳がん検診を受けるきっかけ作りができた。

事業の効果についての評価・考察

本市において、これまでは、イベントへの参加という形でブースを設けて、市民に対してがん検診の啓発や健康チェック等を行っていた。今回、保健所単独のイベントを始めて行い、認知度が少ない中、予想を越える800人を集客できた。これは、市民が普段から利用している市庁舎で実施したためと考えられる。市庁舎は市内のメイン通りにあり利便性がよく、多くの人が参加しやすい立地条件であったと考えられる。さらに、昨今の健康志向ブームもあり、このようなイベントへのニーズが高いことが、このような結果につながったと考えられる。

がん検診を受けるには、きっかけが必要な場合が多い。きっかけがない場合は、健康への高い意識が必要である。健康への意識を高める契機として、このような啓発活動が最も重要であり、今後も継続して行うことにより、がん検診の受診率向上などに効果が現れると考える。

今後の課題

今回、イベント開始前から多くの人が集まり、入場制限を行わなければいけなかったことから、今後行う際の場所を慎重に選定し、運営方法を検討する必要がある。また、乳がん検診の当日申し込みの人数も増やし、今まで乳がん検診を受けたことがない人が検診を受けるきっかけの場になりたい。本事業の評価については、来年度の市民世論調査で、事業の認知度や受診行動などを把握するが、今後も継続して評価をしていくことが今後の課題である。

ホームページ	http://www.city.wakayama.wakayama.jp
照会先	和歌山市 健康福祉局 健康推進部 地域保健課 健康づくり班 073-433-2261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	食生活改善推進委員やボランティア団体等地域で活動している団体と連携して事業を実施することができた
②独創性	4	市民の健康まつりを行っている自治体は多いが、女性を対象とした健康まつりは他の自治体でも行っていない
③普遍性	4	自治体が行っている健康まつりの中で、女性の健康に関する啓発を行うことで全国的に展開することは可能である
④将来性	4	今回の事業がきっかけとなり、今後も継続して行うことができる
⑤効果度	4	1回の実施で、すぐに受診率が増加するのは難しいが、このイベントに多くの人に参加した意味は大きい
⑥信頼度	4	保健所が主体となり、婦人会等の関係団体と連携して実施している

